

# 算数科学習指導案

令和2年10月 第4学年 指導者 新井 恵

1 単元名 たし算とひき算のひっ算「ひっ算のしかたを考えよう」

2 学習指導要領上の位置付け（下学年対応）

第2学年 A数と計算

<A（2）>（加法，減法）

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算を基にしてできていることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

(イ) 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

3 目標

加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

アは、「2 学習指導要領上の位置付け」に同じ。（知識及び技能）

イ 数の仕組みに着目したり、既習の筆算から類推したりして、加法と減法の筆算の仕方を考え、説明することができる。（思考力、判断力、表現力等）

ウ 既習の計算をもとにして、筆算の仕方を考えようとしたり、筆算のよさに気づき、生活や学習に活用したりしようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

4 指導計画 ※別紙参照

5 本時の展開（3/10）

(1) ねらい

筆算を用いて100円で買える物を探す活動を通して、生活の中で加法（和が3位数まで）の筆算を用いることのよさに気づき、用いようとする態度を養う。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の反応	時間	○指導上の留意点 ◎研究上の手立て	評価項目<方法（観点）>
1 学習を把握しめあてをつかむ。 ◇買い物場面と、100円で二つ買う条件を把握し、本時の課題をつかむ。 ・100円しかないな。買えるかな。	10分	○学習活動の流れを示し、児童が見通しをもてるようにする。 ○児童が学習を把握し、児童がめあてを設定できるようにするための留意点（100円を使って二つの商品を手に入ることを示す。	
[めあて] ひっ算を使って買い物名人になろう！			
◇既習内容と結び付けて解決策を考え、見		○必要に応じて、児童の教具操作に合わせて、言葉の補	

<p>通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算の筆算が使いそうだな。</li> <li>・練り上がりがあってもできそう。</li> </ul>		<p>助をしながら筆算の流れや留意点を一緒に確かめる。</p> <p>○視覚的・体験的に数量理解を促す教具を用いる。</p>
<p>2 めあてを追究する。</p> <p>◇二つの品物を選び、レジで購入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買える場合と買えない場合があるぞ。</li> </ul> <p>◇どうなると買えないのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100より多いと買えない。</li> <li>・先に分かると便利だな。</li> </ul>	<p>18分</p>	<p>○買う品物を変えながら複数回問題に取り組ませることで学習を積み重ねることができるようにする。</p> <p>○児童が、100円では買えないことに気付いて計算し直した場合には、理由を説明させる。また、「この二つの値段を足して、100円を超えたから、買えないことが分かったのですね」と気付きの言葉をかけ、確認ができるようにする。そして、実際にレジで買えなかった場合の気持ちを考えさせ、先に計算することのよさを感じることができるようにする。</p> <p>◎筆算を記入する用紙は、これまでの学習で使用したA4版の罫線付きワークシートから、実生活で使用できる簡略化した小さなメモ用紙を使うよう提案する。</p>
<p>3 学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先に筆算をすると、100円で買えるか分かるので安心だな。</li> <li>・正しく筆算できれば、買い物名人になれるぞ。</li> </ul>	<p>5分</p>	<p>○先に計算することで、買えることが確実に分かり、安心してレジに向かえたことを振り返らせ、筆算を使うことのよさを再確認できるようにする。</p> <p>○実的なよさとともに、「正しい手順で計算したから100円で買える物が分かったね」と言葉をかけ、正しい手順で計算することで得られるよさにも触れる。</p>
<p>4 生活に使える新たな問題に取り組む。</p> <p>「合計点でどちらのチームが勝ちでしょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆算を使えば、どっちが勝つか分かるかもしれない。</li> <li>・こっちのチームが勝ちだ！</li> </ul>	<p>7分</p>	<p>◎買い物場面以外にもたし算の筆算を用いる日常生活場面を提示することにより、「使える！報告書」を書く際に筆算を使用する日常生活場面を選択できるようにする。</p>
<p>5 学習を振り返る。</p> <p>◇「使える！報告書」に、たし算の筆算を使いたい場面を考えて記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A店に行った時に計算してみよう。</li> <li>・校内オリンピックの点数を計算したい。</li> <li>・できるようになったことを教えたいな。</li> </ul>	<p>5分</p>	<p>◎「使える！報告書」に記入したことを、複数の教師に伝えることで生活の中で使おうとする意欲を高めることができるようにする。教師には事前に「A店で使ったら教えてね」や「点数の計算ができるなんてカッコいいな」などと意欲を高める言葉で返して欲しいことを知らせておく。</p> <p>◎「使える！報告書」を通して、家庭と学習内容の共有や連携を図り、実際に生活の中で活用することで実践力を高めるようにする。</p> <p>○体育や自立活動などの各教科や学校生活の中で筆算が使える場面を伝え、児童が報告書に記入したり見返したりできるようにすることで、筆算を生活の中で使おうとする意欲が高まるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生活の中で加法（和が3位数まで）の筆算を使うことのよさに気づき、生活や学習に活用する意欲を伝えようとしている。</p> <p style="text-align: center;">＜発言・ワークシート〔記〕 (3)＞</p> </div>

6 板書計画

10/○

めあて  
ひっ算を使って買い物名人になろう！

100

駄菓子売り場の写真

商品の写真カード

買えない

買える

まとめ

ひっ算ができると  
100円で買えるかど  
うか自分で分かる。

指導計画 算数科 知的障害特別支援学級第2学年（下学年対応） 単元名「たし算とひき算のひっ算」（全10時間計画）

目標	加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 2位数の加法及びその逆の減法が1位数などについての基本的な計算を基にしてできていることを理解し、計算することができる。（知識及び技能） イ 数の仕組みに着目したり、既習の筆算から類推したりして、加法と減法の筆算の仕方を考え、説明することができる。（思考力・判断力・表現力等） ウ 既習の計算をもとにして、筆算の仕方を考えようとしたり、筆算のよさに気づき、生活や学習に活用したりしようとする。（学びに向かう力・人間性等）			
評価規準	(1) 2位数の加法（和が3位数）とその逆の減法の筆算の仕方を理解し、計算している。（知識・技能） (2) 位の仕組みに着目したり、既習内容から類推したりして、加法や減法の筆算の仕方を考えている。（思考・判断・表現） (3) 既習の計算をもとにして、筆算の仕方を考えようとしたり、筆算のよさに気づき、生活や学習に活用したりしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）			
過程	時間	○ねらい めあて	・振り返り（意識）	評価項目 〈方法（観点）〉
であう	1	○教科書の絵から場面を把握し、メダルの数を考えることを通して、既習事項を振り返るとともに、本単元の学習で追究していく問いを見いだすことができるようにする。  100 より大きな数のひっ算の仕方を考えよう。	・十の位に入らない数も計算できるようになるのかな。	・2位数+2位数=3位数（百の位への繰り上がりあり）の筆算の仕方を、位の仕組みに着目したり、既習内容から類推したりして発言している。 〈発言・ワークシート(2)〉
追究する		○2位数+2位数=3位数（百の位への繰り上がりあり）の筆算の仕方を、磁石玉を操作して考えることを通して、既習事項と結び付けて筆算の仕方を理解し、その計算ができるようにする。  十の位に入りきらないときはどうしたらいいのだろうか。	・位は大きくなっても10になったら次の部屋に入れることが分かった。	
	1	○2位数+2位数=3位数（十、百の位への繰り上がりあり）や、2位数+1、2位数=3位数（百の位への波及的繰り上がりあり）の筆算の仕方を、磁石玉を用いて考えることを通して、その筆算の仕方を理解し、計算ができるようにする。  十の位の数が大きいたし算のひっ算はどのように計算したらいいのだろうか。	・何度繰り上がっても、繰り上がる数を忘れずに書けば大きな数も計算ができた。	・2位数+2位数=3位数（十、百の位への繰り上がりあり）や、2位数+1、2位数=3位数（百の位への波及的繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、計算することができる。 〈発言・ワークシート(1)〉
本時	1	○筆算を用いて100円で買える物を探す活動を通して、生活の中で加法（和が3位数まで）の筆算を用いることのよさに気づき、用いようとする態度を養う。  ひっ算を使って買い物名人になろう！	・筆算を使って100円で買える物を探し出せた。 ・レジに行く前に、筆算をすれば買えるかどうかが先に分かっていいな。 ・買い物や校内オリンピックで筆算を使ってみよう！	・生活の中で加法（和が3位数まで）の筆算を使うことのよさに気づき、生活や学習に活用する意欲を伝えようとしている。 〈発言・「使える！報告書」〔記〕(3)〉
	1	○3位数-2位数（百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を、磁石玉を用いて考えることを通して、既習事項と結び付けて繰り上がりの筆算の仕方を理解し、その計算ができるようにする。  十の位がひけないときは、どうしたらいいのだろうか。	・100は10が10個だから借りてくると10になることが分かった。	・3位数-2位数（百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を、位の仕組みに着目したり、既習内容から類推したりして発言している。 〈発言・ワークシート(2)〉
	1	○3位数-2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を、磁石玉を用いた場合と筆算上の数字を対応させながら考えることを通して、繰り下がりの仕方を理解し、その計算ができるようにする。  一の位も十の位もひき算できないときは、どうしたらいいのだろうか。	・十の位が足りなかったら、百の位から借りてくることが分かった。	・3位数-2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、計算することができる。 〈発言・ワークシート(1)〉
	1	○3位数-1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を、磁石玉を用いた場合と筆算上の数字を対応させながら考えることを通して、繰り下がりの仕方を理解し、その計算ができるようにする。  十の位がくり下がれないときはどうしたらいいのだろうか。	・十の位がなかったら、百の位から借りてくればいい。	・3位数-1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、計算することができる。 〈発言・ワークシート(1)〉

	1	○筆算を用いて商品の価格を計算する活動を通して、生活の中で減法（3位数－1、2位数）の筆算を用いることよさに気付き、用いようとする態度を養う。  割引きを計算して、100円で買える物を探しだそう！	・値引きするといくらになるのかを計算してお母さんに教えてあげたくなった。	・生活の中で減法（3位数－1、2位数）の筆算を用いることよさに気付き、生活や学習に活用する意欲を伝えようとしている。 ＜発言・「使える！報告書」〔記〕(3)＞
	1	○3位数＋1、2位数（百の位への繰り上がりなし）や3位数－1、2位数（百の位からの繰り下がりなし）の筆算の仕方を、既習内容と結び付けて考えることを通し、その仕方を理解し、計算ができるようにする。  今までより大きな数のひっ算も同じようにできるのだろうか。	・大きな数の筆算も今までと同じように考えれば解くことができた。	・3位数＋1、2位数（百の位への繰り上がりなし）や3位数－1、2位数（百の位からの繰り下がりなし）の筆算の仕方を、位の仕組みに着目したり、既習内容から類推したりして発言している。 ＜発言・ワークシート(2)＞
	1	○筆算を用いて商品の合計金額や残金を計算する活動を通して、生活の中で減法（3位数－1、2位数）の筆算を用いることよさに気付き、用いようとする態度を養う。  野菜や調味料の計算に挑戦して、お手伝い名人になろう。	・買えるかどうかを自分で考えてから買い物ができるようになった。 ・お母さんの手伝いの買い物もできるようになった。	・生活の中で減法（3位数－1、2位数）の筆算を用いることよさに気付き、生活や学習に活用する意欲を伝えようとしている。 ＜発言・「使える！報告書」〔記〕(3)＞
つかう	1	○これまでの学習内容で扱った生活場面を振り返り、生活に生かせる場面や生かしたい場面を話し合う活動を通し、生活の中で筆算を用いることよさに気付き、用いようとする態度を養う。  学習した大きな数の計算はどんな時に使えるのだろうか。	・筆算を使える場面は、買い物だけではなく、たくさんあったから、使ってみよう。	・これまでの学習を振り返り、生活に筆算が用いられる場面を思い出しながら発言している。 ＜発言・「使える！報告書」〔記〕(3)＞

※太枠内は、学習内容と日常生活場面を結び付ける時間を示す。